平成２４年３月発行

パートナーシップおかや

NO. 8

岡谷市男女共同参画推進市民の会

女性の感性を地域に

岡谷市連合壮年会長　　北　原　光　治

例えば、公民館の建設には台所の配置、機具機材、食器類の購入等は女性の感性が大切だし、最近は介護士等福祉施設への女性の進出がめざましい。

女性は子どもを生むことが出来るが男性では出来ない。子どもを育てる役割は一義的には子どもを生む女性であるから、家庭内では女性が主体的に役割を担うことが理想であり、女性もそれに生き甲斐を感じ、満足していると思う。しかし、少子化時代の今はこの生き甲斐の期間も短縮され、高齢化して余生は長くなった。子育てを終えると女性は社会から「おいてけぼり」になってしまう。

会社を退職して、子育てや家事に没頭して家庭内の役割を全うしても社会から引退したと見られてしまう。女性が社会的に強い発言力を持つためには、子育て期間の社会的空間を埋めるべく意欲的に学び活動して広い視野を持つべきである。

女性の優れたところは、競争を意識している男性とは違って、親切で優しかったり、人付き合いがよく柔軟であることだと思う。市議会や行政懇談会では、連壮、連婦、老連三団体が岡谷市の活性化等について討議した時も女性の感性での発言が高く評価されている。

区長会で女性団体と懇談したときも、「寄付をあまり集めずに御柱祭をやって欲しい」と言う意見が女性から出た。主催者とすれば「賑やかに祭りを盛り上げよう」と考えると寄付が少ないと心配になる。ここにも考えの違いがある。異なる意見は一時反発するが、互いに刺激し合い、練り上げられていく。

長い間の規則や慣習から女性に不利な問題もあるが、こうした問題は、女性が主体的に課題を把握し問題提起し、話合いで解決方法をさぐるよりないと思う。

役員退任に当たって

平成２２・２３年度と市民の会会員及び各種団体の皆さんのご協力をいただきながら、事務局をお引受けいただいている岡谷市企画課男女共同参画係との協働により微力ながら男女共同参画推進事業を行って参りました。

２２年度は「男女共同参画おかやプランⅣ」が策定された年であり、２６年度を目標年度として取り組んでいます。松本ゾンタクラブより助成金を頂き、念願であった情報紙の発行が出来たこともうれしいことでした。会員以外の方からもご寄稿頂き感謝しております。多くの皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。

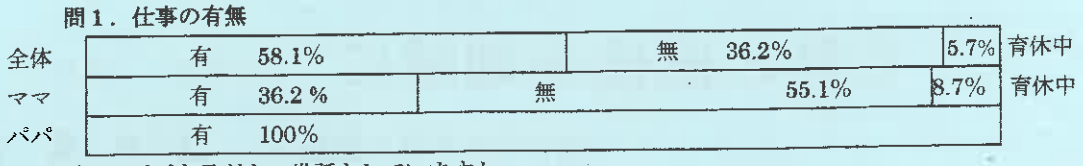
会長　伊藤綾子　　副会長　小池喜代　山崎一子

特　集　子育て中のパパ、ママに聞きました

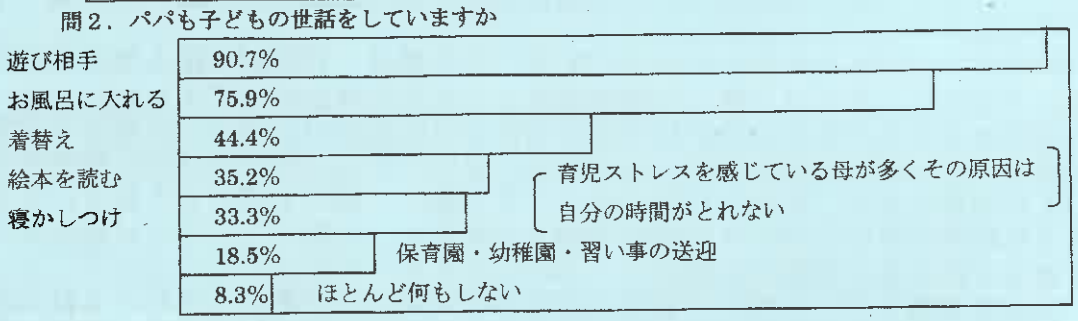
昨年度（2010年）市民の会有志が「あいとぴあグループ企画共同事業」に応募し、その一環として子育て中の人へのアンケートを致しました。その結果を紹介します。

○調査対象　男性 108人（34.3%）　女性 207人（65.7%）　合計 315人
　年代　20代（14.3%）30代（62.8%）40代（20.0%）50代以上（ 2.9%）
　機会　「育メン講座」参加者、「こどもの国」来場者、アピタへの来客等

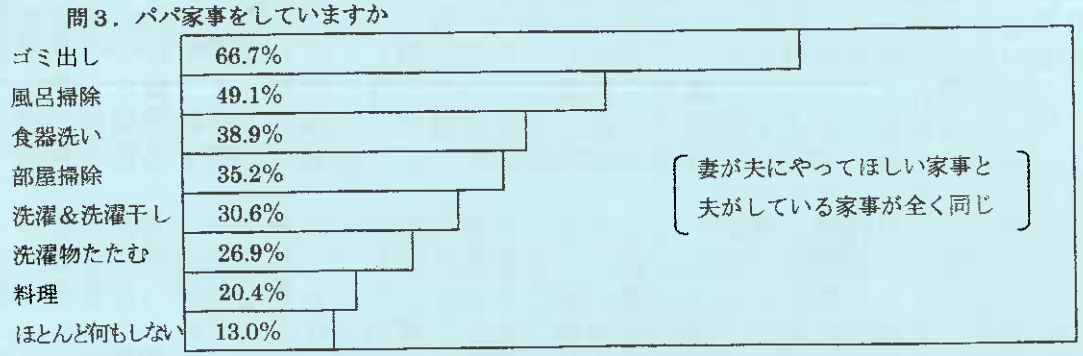
問１．仕事の有無



問２．パパも子どもの世話をしていますか



問３．パパ家事をしていますか



問４．夫に言われて悲しかったこと、妻につい言ってしまった言葉

夫に言われたことはない　29.0%　　妻に言ったことはない　14.8%

〔妻〕夫に言われたこと		〔夫〕妻に言ったことがある
・忙しい、疲れている	29.0%	46.5%
・「何やってるの」行動を否定される	15.5%	24.1%
・「おまえがやれ」と押し付ける	13.0%	16.7%
・しつけ、育て方を妻のせいにする	15.0%	10.2%
・働いていないから暇でしょう	11.6%	8.3%
・食事に関すること	8.7%	10.2%

調査場所の関係から対象者に片寄りがあるかと思われるが、父親が全員仕事をもっているのに対して、働いている母親はおよそ40%。子どもと遊んだり入浴させたりする父親が多いのに対して、ほとんど子どもと関わっていない父親も１割程度いることになる。また、食事づくりへの関わりは少なく、夫の妻への話し方について、両者の認識の違いがある点など、互いの立場を意識することも課題になりそうである。

市民の会の取り組みから

他団体とともに市民の会としてつぎのような事業に協力して取り組みました。

「おかや男女共同参画フォーラム」

加藤さゆり長野県副知事と語る会

期日　平成２４年1月１９日　　会場　カノラホール小ホール

＜今井竜五市長の講師ご紹介＞　加藤副知事は、昨年３月に長野県政初の女性副知事に就任されました。それまで、全国地域婦人団体連絡協議会事務局長をはじめ、消費者庁参事官、内閣府男女共同参画審議員を務められ、男女共同参画や消費者問題など私たちの生活の身近な部署でごかつやくされ、豊富な経験をお持ちの方です。

講演　「女性が元気な長野県をめざして」

懇談　　会場からの質問・意見等に答えて

＜参加者の声＞

鮎沢区長　鮎　沢　正　弘

長野県で初めての女性副知事を迎えての「男女共同参画フォーラム」に参加して、今日まで余り問題意識を持たずに過ごして来たことを強く感じました。具体的には、女性の政策決定の場への参画が遅れている事、少ないという事が強く頭に残りました。県や市町村職員や議員、身近な区役員なども現実には非常に少ないと感じています。市や各区でもいろいろな会がありますが、男女共同参画と具体的なテーマによせた会を持たなければ、話合いは出来ないのが現実ではないかと思います。各種の会合の席で、自身の問題として問題意識を共有し、少しでも進める事が大事だと感じました。

加藤副知事を迎えての懇談は多岐にわたり具体例を上げ、分かり易い内容でした。問題意識を持って取り組むことから進めたいと感じました。

市民の会　北　原　正　男

具体的な資料を示して説得力のある講演であったが、要は女性自身の自覚と自己の主張をすることが自分を育てると言える。だが、自己主張だけでなく協議を怠らないようにしなければならない。

あいとぴあ祭り

期日　　平成２３年１２月１０日
会場　　長野県男女共同参画センター

はじめての“あいとぴあ祭り”が諏訪地域の有志による実行委員会により開催されました。地元として市民の会からも多くの方が積極的に参加協力、ワークショップ「昔からのしきたり、慣習これでいいの？」をテーマとし、具体的には「保育園の保護者会・ＰＴＡ会長になぜ女性が出てこないか」に絞り、短大生・一般参加者・市民の会の会員等13名で話し合いました

- 女性が出ない（出にくい）理由は、行事が多くて子育て中は無理、経験が少なくそれなりの意識が進まない、昔からの慣習で男性がなるものと思っている。
- どうすれば女性が出られるかは、役員の選出方法を見直す、家族の理解と協力が必要、社会慣行を見直すなどが出ました。

＊役員対象のアンケートでは、どちらが会長になってもよいとするのは男性が約80％なのに対して女性は約50％で女性の意識に課題がありそうです。（伊　藤　綾　子）

参加報告

男女共同参画推進団体等交流会

期日　平成２４年１月１８日（水）

主催　長野県男女共同参画推進県民会議
　　長野県男女共同参画センター

この交流会は、県民会議構成団体と市町村の男女共同参画推進団体との交流学習会として開催されました。長野大学環境ツーリズム学部の古田睦美教授の「女も男も共同参画で地域をつくる」と題した講演の後、３つの分科会で事例発表を通して意見交換しました。「市民の会」は、第３分科会の話題提供をいたしました。

◇第１分科会　「情報発信や啓発等への取り組み」　東御市男女共同参画推進会議

東御市は、平成16年東部町と北御牧村が合併して出来た。人口は31,431人でパートナーシップ“みまき”として市民会議がスタートし、活動を始めた。当初会員は50名だったが、現在は15名で活動している。活動の一端として「地区懇談会」「体験発表」「朗読劇」「紙芝居」「寸劇」等により他団体と共に地区をグループ分けし、分散会等で集いを持ち、意見交換も行っている。他団体との取り組みについてはコミュニケーションを取りつつ、企業・地域・性別に関係なく協力しあい、個性・能力等を引き出し地域の活動に生かしていく。また、その中より推進の方法をさぐり、協働での活動を進めてよりよい地域づくりの活動を支えあっている。　（武井　きぬ）

◇第２分科会　「若年層・男性の参画促進への取り組み」　上田市ﾊﾟﾊﾟﾏﾏﾌｪｽﾀ実行委

冒頭、長野市・大町市・上田市・千曲市・岡谷市から参加した皆さんから自己紹介かたがた各市や地域で取り組んでいる事業・行事内容等の紹介がありました。力点の置き方はそれぞれ異なるものの、熱心に取り組まれている様子を伺い知ることが出来大いに刺激を受けました。これだけでも交流会を持った意味があると思いました。

次に、上田市（丸子地区）で取り組んでいる「育児にも男性の積極的な参加を促す活動ーパパママフェスタ」の企画と運営、特に工夫している点やこれまでに得られつつある成果等について、具体的で説得力のある事例発表がありました。発表者は子育て真最中の荒川さんです。

その後、参加者より積極的・建設的な活動と展開に対して賛辞や質問など活発な意見交換が行われ、男性の参画促進について理解を深め合いました。活動の企画・実施にあたっては行政のサポートを有効に使うとともに「男性（夫）に抵抗なく育児に参加し貰うためにはね多くの男性が持っている自尊心を傷つけないように、逆にそれをくすぐるような方法で実施していくことがこれまでの成功につながっている」との報告が特に参加した皆さんの共感を呼んでいました。（三沢　勲）

第３分科会「地域での女性参画促進に対する取り組み」を発表する会員

防災と男女共同参画フォーラム

期日　平成２４年２月８日（水）
会場　“あいとぴあ”

「災害に取り残される人を出さないために男女共同参画の視点で考える」という相川康子さんの講演に続いて、事例発表として「震災で気づいた普段の大切さ」について石田千登美さんに東日本大震災の様子をお聞きしました。

湊地区では、平成18年７月19日未明に未曾有の土石流災害が起き、町内の３分の２が災害に合いました。５時30分「むすびを持って小学校へ行くように」と連絡が入りました。女性が集まったのは学校の調理室で、指揮を取ったのは町内会長の奥さん。私たち婦人会・日赤奉仕団は協力して一緒にやりました。朝食は災害を免れた家からの持ち寄りで済ませました。その後、当番制にして食事係・トイレ掃除・整理整頓等の役割を決めました。２日間が過ぎると市職員から「食事は栄養士・調理師で賄うから」と言われました。暑さに向うため食中毒防止のためだと思います。７月末頃まで出入りしてましたが、女性の悩みは余り感じられませんでした。土石流に合った女性たちが集まってその時の様子を話せば気が楽になるのではないかと、３ヵ月後に「しだれ桜の会」を立ち上げ、今も続けています。　（湊区　花岡つね子）